

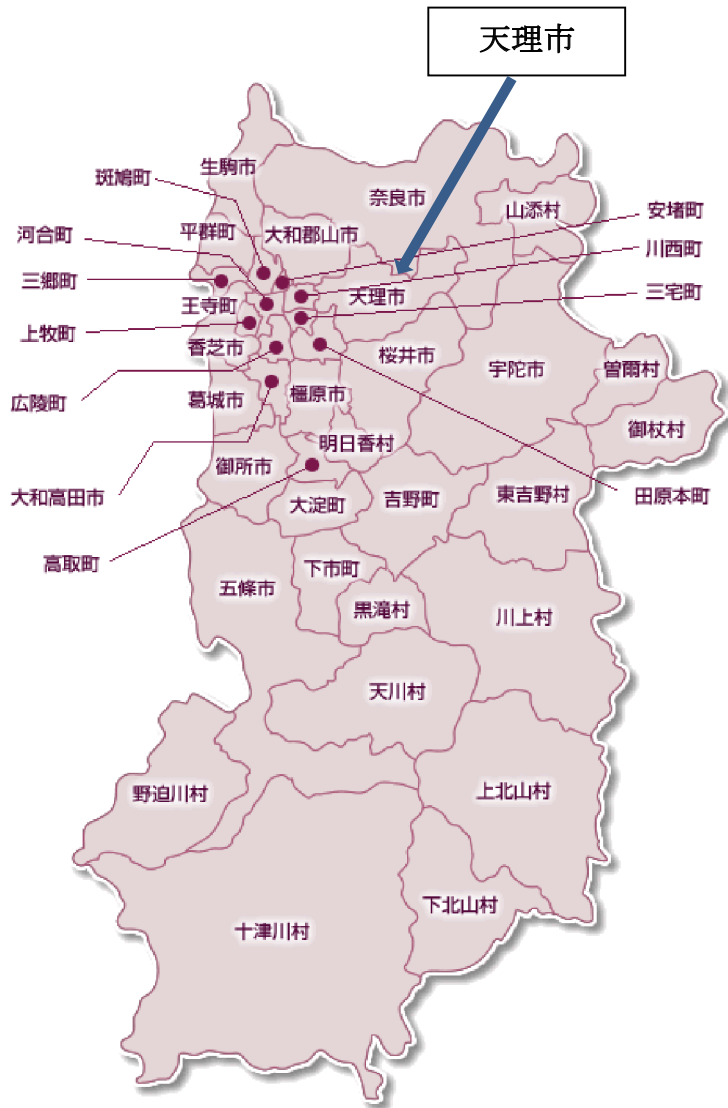


◇宗教文化都市・天理市

今回は、奈良県の北部に位置する天理市を紹介します。

天理市ホームページの市のプロフィールには次のように紹介されています。

昭和29年山辺郡丹波市町と二階堂、朝和、



福住の3村、添上郡樺本町、磯城郡柳本町が合併して市制施行、天理教協会本部の所在地として、全国初の宗教団体名を冠した天理市が誕生しました。

市域は、大和高原（笠置山地）の西端、春日断層崖下の丘陵地と、市街地中央部を西に流れる布留川扇状地、奈良盆地東端の平坦地を占めています。

JR桜井線、近畿日本鉄道天理線、国道24号、

25号、169号、名阪国道、西名阪自動車道の通じる交通の要地であり、中心の丹波市は布留川扇状地末端部に位置しています。

◇天理市の概要

天理市の人口は、平成30年8月末現在で65,698人と減少傾向にあります。反対に高齢化率は、25・53%と徐々に上昇しています。

国民健康保険の被保険者数は、平成30年7月末で15,481人、加入率は23・53%と県内の他の市町村と同様に人口の減少や被用者保険への移行に伴い、少しずつ減少しています。

天理市概要データ		
〈平成30年8月末現在〉		
面積	86.42	km <sup>2</sup>
人口	65,698	人
世帯数	29,936	世帯
高齢化率	25.53	%
国保被保険者数	15,481	人※
国保加入率	23.56	%※
(※は平成30年7月末現在)		

### ◇天理市の国民健康保険事務

天理市の国民健康保険事務の担当課は、保険医療課で、やぶうちやすひろ 藪内康裕次長、なかむらとおる 中村亨係長、いしまる 石丸実希みき保健師から状況を伺いました。  
 保険医療課は、4つの係があり、いきいき健康係（国民健康保険の資格と給付、保健事

業に関する事務）、保険料賦課係（国民健康保険料の賦課に関する事務）、保険料徴収係（国民健康保険料の徴収に関する事務）が国民健康保険に関する事務を18人で行っています。また、これ以外にも福祉医療係（4人）があります。

### ◇国保料の収納率は県平均を上回る

国民健康保険料の収納状況（収納率）は、平成27年度が93・70%（県平均93・72%）、平成28年度が94・31%（県平均93・89%）で、県平均を若干上回りました。また、平成29年度は94・27%となっています。

ただ、「平成30年度からは、県の運営方針、保険料方針で、県から示された納付金に見合うよう、保険料の料率改正をしたので、平成30年度は、収納率が下がるかもしれない」と不安の声を述べられていました。

### ◇1人当たり医療費の低さは県下トップ級

天理市の1人当たり医療費は、平成26年度277,078円（県平均330,949円）で県内1位、平成27年度292,461円（県平均348,160円）で県内1位、平成28年度297,752円（県平均350,564円）で県内2位とかなり低い金額となっています。

その要因を伺ったところ、一つは他市町村に比べると若年層が多いこと。もう一つは、理由になるか分かりませんが、大きい病院が2つあることではないかと考えています。大体の被保険者が病院に行かれる。逆に言えば、診療所が他市町村に比べて少ないのかもしれないということでした。



中村係長

藪内次長

### ◇糖尿病性腎症重症化予防を重点的に実施

現在、国保事業の中で重点的に取り組んで

いることを伺ったところ、保健事業を重点的に取り組んでいるとのことでした。特に糖尿病性腎症重症化予防の取組。

糖尿病性腎症重症化予防事業とは、糖尿病で通院する患者で、血糖値（HbA1c）が高い、腎機能を示す数値が悪いなど糖尿病による合併症のリスクが高まっている者に対し、主治医の指示のもと保健指導を実施し、対象者の方の生活改善を行うものです。このことにより、糖尿病の合併症である腎不全による人工透析への移行の防止、心筋梗塞、脳梗塞の発症を予防することを目標としています。

単に被保険者へ通知をするだけでなく、実際に保健指導を行う取り組みを平成29年度から天理市医師会の協力を得て行っています。平成29年度は、保健指導を4人行い、3人が改善しました。参加者からは、「参加してよかったです。」という声もいただき、医師会の先生からも協力したいと話し合いの場を設けていただくなど、本年度も引き続き取り組みを行っています。

天理市においても、年々糖尿病患者やその医療費は増加傾向にあります。本事業を通じ、糖尿病をはじめとする生活習慣病対策を医療機関と連携し実施していきたいと考えています。

#### ◇人間ドックも充実

国保人間ドックにも力を入れていきます。こちらは、天理市立メディカルセンターに委託し、特定健診やがん検診、腹部超音波等の検査を受診できる内容となっています。また、胃カメラに変更することもオプションで可能とのことで、これがあるから毎年受けたいたいという声があるなど、リピーターが多いのが特徴のようです。

平日と土曜日に実施され、例年6月頃には定員に達するとのことでした。

#### ◇特定健診の受診率は年々上昇

特定健診の受診率は、平成26年度が22・9%（県平均29・5%）、平成27年度が24・4%（県平均30・8%）、平成28年度が26・2%（県平均31・2%）となっています。

県平均には及ばない低い受診率ですが、ここ数年1ポイント以上の伸び率となっています。

その要因を伺ったところ、1つは先述の国保人間ドックが着実に実施できていること。

2つ目は集団ミニドックの実施。内容は、国保人間ドックよりも検査項目が少なくなりますが、がん検診等を安く同時受診できるので、好評を得ているとのことでした。実施回数

も年々増加しており、数年前から土日にも実施されています。

土日は、若い男性の被保険者が受診する傾向があるのでありがたいと述べられています。

#### ◇市医師会にも協力要請

さらには、市医師会の定例会に参加して協力要請を行っていることもあり、診療所での受診者数も着実にアップしていることが要因ではないかと考えていますとのことでした。

#### ◇特定保健指導の実施率は県平均を上回る

特定保健指導の実施率は、平成26年度が30・4%（県平均14・4%）、平成27年度が10・8%（県平均15・4%）、平成28年度が24・6%（県平均17・3%）となっています。

天理市立メディカルセンターが天理市立病院から移行したこともあり、平成27年度は大きく下落しましたが、平成28年度は再び上昇しています。

元々天理市立メディカルセンターの前身である天理市立病院が特定保健指導に熱心であったこともあり、高い実施率を誇っていました。

現在は直営での特定保健指導も併せて重点

的に実施する方向であるとのことでした。



特定保健指導を行っている様子

#### ◇平成30年度から当日特定保健指導も実施

また、平成30年度からは集団ミニドックで特定健診を受診した方に対し、当日の特定保健指導を実施することが可能となり、腹囲や血圧・喫煙などの結果で特定保健指導該当者の可能性がある人に生活のふりかえり等の話を行うなどの保健指導を実施していることで、更なる保健指導の充実・実施率の上昇ができていないかと期待しているとのことでした。

また、受診者は、話を聞くことに対して多忙や聞きたくない等で拒否する人がいるのではないかと伺ったところ、特に拒否反応もなくプログラムの一環として話をきいてもらっているとのことでした。

#### ◇データヘルス計画

平成26年度に策定した第1期データヘルス計画は、平成29年度で終了したので、第2期計画を今年度中に策定することです。

今回の計画は、特定健診・特定保健指導だけでなく、重症化予防にも重点を置く計画とのことで、現在、市全体の医療動向等を分析されているとのことでした。

#### ◇国保業務について

国保業務をしていてよかったなと思うことを中村係長に伺ったところ、「窓口に出ればいろいろな住民に対応するので、窓口対応が一番難しい。特に国保業務は覚えることが多く、また、覚えないと対応できないので大変である。」

でも、住民さんが他の用事で立ち寄った際に顔を見たくて立ち寄ってみたと名指しで立ち寄ってくれるというのは本当に嬉しい。(取材予定時間に住民さんとお話されていたそう)

です)

うまく対応できたら次に指名で来られることもあり、住民さんと仲良くなれるので、そういう時にやっていてよかったなと感じる。」と述べられていました。

また、石丸保健師は、「健診や保健指導を行った人から「がんなどの病気が早く見つかってよかった」と報告してくれる人がいる。」

住民さんが生活改善の話聞くことで一緒に改善していただけることがうれしい。近い関係になれることはありがたい。」と述べられていました。



窓口を背景に。右側が石丸保健師